

厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）
分担研究報告書

造血幹細胞移植に用いる細胞の安全な処理・保存・品質管理体制の確立に関する研究

造血幹細胞移植における造血幹細胞輸注時有害事象の実態調査

研究分担者	大戸 斉	福島県立医科大学	輸血移植免疫学講座	教授
研究協力者	室井一男	自治医科大学	輸血・細胞移植部	教授
同	池田和彦	福島県立医科大学	輸血移植免疫学兼循環器血液内科学	
同	藤原慎一郎	自治医科大学	内科学講座血液学部門	講師
同	金森平和	神奈川県立がんセンター	血液内科	部長
同	藤原実名美	東北大学病院	輸血・細胞治療部	准教授
同	藤井伸治	岡山大学	輸血部	講師
同	奥山美樹	都立駒込病院	輸血部	部長
同	芦田隆司	近畿大学	輸血・細胞治療センター	教授
同	諫田淳也	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科	講師
同	長村登紀子	東京大医科学研究所	セルプロセッシング・輸血部	講師
同	竹下明裕	浜松医大	輸血細胞治療部	准教授
同	田崎哲典	東京慈恵会医科大学	輸血部	教授

研究要旨

造血幹細胞移植において細胞の採取から輸注まで安全に効率よく行うことを最終目標とする。その一環として、多施設共同で造血細胞輸注時の有害事象観察を前方視的に行っている。データを蓄積中であり、今後目標症例数に達した後に、詳細な解析を予定している。

A．研究目的

凍結および非凍結の骨髄、末梢血、臍帯血といった各種造血細胞輸注時の、有害事象の頻度と重症度を正確に評価し、対策に役立てる。

B．研究方法

造血細胞輸注研究においては、造血幹細胞輸注後における異常の有無、移植細胞数等をアンケート調査し、統計解析を行う。

(倫理面への配慮)

日本輸血細胞治療学会、事務局の福島医大ならびに各参加施設において倫理委員会の承認を得て研究を遂行している。

C．研究結果

造血細胞輸注研究においては、約 350 例（2015 年 2 月末）のデータが集積されており、今後さらに症例の蓄積が必要である。

D．考察

今後予定症例数に達した時点で解析・考察を行う。

E．結論

上に示したとおり、現在症例を順調に蓄積中であるが、データに関しては未解析である。なお、予定症例数に達した段階で早急にデータ解析の上、論文化する。

F . 健康危険情報
主任研究者報告書に記載

G . 研究発表

1. 論文発表
準備中

2. 学会発表

・造血幹細胞輸注時における有害事象観察：
他施設共同前向き研究
(日本輸血細胞治療学会会誌,2014年,第
60巻第2号,P404)

H . 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録
該当なし

3.その他
特になし